

♪「中部土曜教室 アコーディオン発表会」ぶらり訪問記♪

主催 音楽センターアコーディオン中部土曜教室

日時 2010年5月23日(日)13:30 開演
会場 東京農業大学 学友会館
グリーンアカデミーホール
交通 小田急線・地下鉄千代田線
「千歳船橋」駅より徒歩 15分
友情出演 ピアノ:小尾祥子 / 佐藤郁代
ドラムス:深澤博房
講師 関英昭 小林のりこ 森陽介
入場料 500円

当日はあいにくの天気でしたが、同じ音楽センター仲間でもあり、会場も比較的近いので教室の仲間5人と楽しみに出かけてみました。プログラムは全体を3部に区切り、一部と二部の中で生徒の演奏を行い、三部は講師演奏の構成でした。

オープニングは「崖の上のポニョ」(編曲・指揮:関英昭)の合奏でした。独奏の1番手は船村徹作曲の「矢切の渡し」です。穏やかな川の流れに任せてのんびり櫓をこいでいるそんなのどかな感じが出ていました。

ロシア民謡「白樺」(編曲:中山英雄)は、もともときれいな曲ですが力みの無い素直なジャバラの動きで白樺林を通り抜けるさわやかな風の匂いが伝わってくるすがすがしい演奏でした。

三重奏「オルフェの唄」作曲:LuiZ Bonfa (編曲:関英昭)は三人の息がよくあっているだけでなく、流れがとてもきれいで素敵な演奏でした。

2部は全員合奏「春を待つウクライナの娘」ロシア民謡(編曲:関英昭)で始まりました。ベースパートの音がよく通っていたので全体がとても

もはっきりして好演奏になっていました。(写真は休憩時間にフォークダンスを踊る相手



を探すぬいぐるみ)

後半に演奏された方は、皆さん左右の音量のバランスがとても良いこと、また、落ち着いていて無駄の

ない柔らかい演奏なので、姿勢もよく見た目にもきれいな点などは共通していました。

女性3人によるアンサンブル「The Easy Winners」(作曲:スコット・ジョプリン)は、初めて聴く曲でしたが、とってものの良いきれいな曲でした。

講師演奏では森陽介氏が「BLUESETTE」でピアノとの掛け合いに挑戦。小林のり子氏はボサノバのリズムで「イパネマの娘」を独奏、また、関英昭氏は「紅の豚」の中で使われた「アドリア海へ～マルコとジーナのテーマ」(編曲:関英昭)をピアノとのアンサンブルでまた、「リベルタンゴ」「アディオス・ノニーノ」(作曲:A.ピアソラ/編曲 Febian Reza Pane)は、ドラムスとピアノとアコのアンサンブルで、ともに素敵な演奏でした。

エンディングの合奏「想いの届く日」(作曲:ガルデル/編曲:関英昭)は、これもはじめて聴く曲ですが、ゆったりとした曲です。メロディーもそれを支える他のパートもしっかり音がでていて気持ちの良い演奏でした。下の写真は、エンディングの様子 (記:乙津)

